

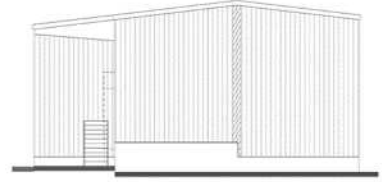
R4 - 01

建築物名称	(仮称)(株)コーチョー新工場 新築工事
受付日	令和3年4月5日
建物所在地	富士市厚原字川窪288-1他15筆及び288-3地先官有地
構造規模等	鉄骨造／地上2階／延床面積3,753.96平方メートル／新築
建物用途区分	工場
建築主	株式会社 コーチョー 代表取締役 渡邊 直
設計者	エム・テイスト建築設計事務所 工藤 雅仁
工事完了予定日	令和4年10月31日

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株コーチョー新工場 新築工	階数	地上2階
建設地	富士市厚原字川窪288-1他15筆及び	構造	S造
用途地域	工業地域、法第22条区域、第二種高	平均居住人員	10人
地域区分	7地域	年間使用時間	6,360時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年10月 予定	評価の実施日	2022年3月30日
敷地面積	6,666 m ²	作成者	工藤 雅仁
建築面積	3,425 m ²	確認日	
延床面積	3,754 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 0.5</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>46 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境 Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
Q 環境品質 Qのスコア = 1.9		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.5</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 1.5</p>

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.1</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.7</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>これはCASBEE静岡2016年版による評価結果である。 建築物の環境品質については、ゆとりが有り維持管理のしやすい空間とすることで環境品質が向上するよう努めている。</p>		<p>その他</p> <p>特になし</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>0</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>空間にゆとりを持たせることによって、機能的で使いやすい空間とするとともに将来の変化にも対応できるよう配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>外部仕上等の色彩において、周辺の街並みや風景にバランスよく調和させている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LED照明など高効率な設備機器を採用してエネルギーの削減を図っている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>有害物質を含まない材料の使用、R32冷媒空調の設置に努めるなどして環境への悪影響の低減を図っている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>大気汚染防止に努めて、環境負荷の低減に取り組んでいる。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



□欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要		BEE	0.5	BEEランク	B-	★★
建物名称	〈仮称〉緑コーポ新工場 新築工事					

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3 / 5		ふつう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8 / 5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0 / 5		ふつう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3 / 5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上
			ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

重点項目についての環境配慮概要	内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。	得点	3.3
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①BPlm0.95 外皮性能に配慮した。 ④各種仕上の更新間隔に配慮した。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑨BEIm0.72 設備システムの高効率化を図った。 ⑩LED照明など高効率な設備機器を採用してエネルギー消費の削減を図っている。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪大便器を節水便器とし上水の使用量を抑制した。 ⑬有害物質を含まない建材を使用した。 ⑬発泡剤は使用なし。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭設備の高効率化により地球温暖化へ配慮した。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	得点	2.8
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰設備機器・配管等は耐震クラスBとして、地震災害に対して留意した。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	得点	3.0
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	得点	2.3
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/⑶敷地内温熱環境の向上) ■敷地外環境対策 (⑷持続可能な森林から産出された木材/⑸温熱環境悪化の改善) 	Q-3 1 ⑵ 生物環境の保全と創出 2 ⑶ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑶ 敷地内温熱環境の向上 LR-2 2 2.5 ⑷ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ⑸ 温熱環境悪化の改善	